

令和3年度

適期収穫と収穫後の 圃場管理のポイント

- ＝ 9月 ＝ 品質・食味を低下させないために早目の準備を心掛けましょう！
○成熟期予測とこまめな試し刈りで適期収穫を行いましょう！！
○品質保持に向け適切な収穫・乾燥調製を徹底しましょう。
- ＝ 9～10月 ＝ 来年の栽培に向けて圃場のメンテナンスを行いましょう！
○乾田化対策を実施し、作業性の向上や乾土効果を高めましょう。
○畦畔の補修や土壌診断を活用し、次年度に備えましょう！！

天気予報
(今日・明日・明後日)



気象台ホームページ

北海道農産協会



2021年8月

北海道／道総研農業研究本部／ホクレン／北集／北海道農産協会

米 No.3

収穫適期の判断

■ 積算温度による成熟期の予測

○出穂期以降の毎日の平均気温を積算し、**950℃**に達する日を成熟期と予測します。

○積算値での予測は、品種や籾数の多少によっても異なりますが、**これから約1週間が収穫適期の目安**になります(図1)。

○近年は950℃に達する日数が短くなっており、出穂後の気温経過に注意しましょう(表1)。

表1 出穂日から積算温度950℃到達日までの日数

年次	出穂日(40～50%の穂が出た日)			
	7月25日の場合		8月1日の場合	
	到達日数	平年比遅速	到達日数	平年比遅速
2020年	44日	2日早	43日	4日早
2019年	44日	2日早	46日	1日早
平 年	46日		47日	

※岩見沢アメダス値使用。平年値は1991～2020年平均。

ゆめぴりかの収穫適期の目安は950～1000℃

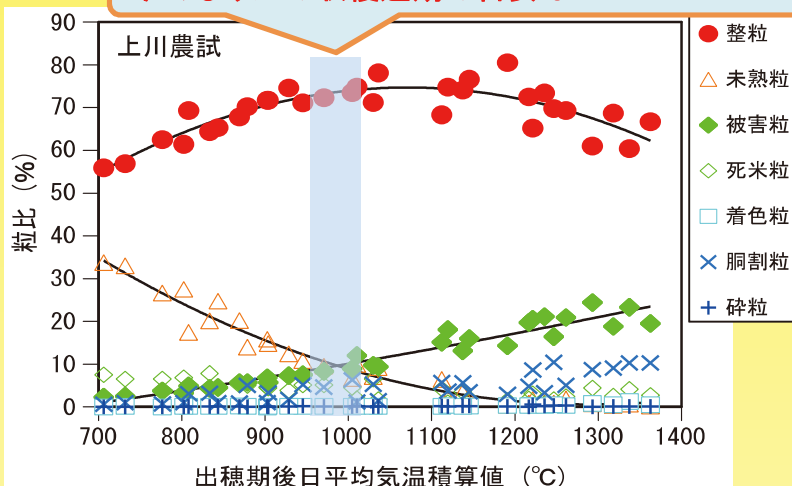


図1 ゆめぴりかの収穫時期と玄米品質(H25、「ゆめぴりか栽培マニュアル」より)

夏期の高温により、到達日が早まっています。

■ 黄化籾の割合で成熟期を判定

○成熟期は全籾の**90%が完熟籾**(籾の護えいも黄化)になったときです(図2)。

○積算値により予測した成熟期に近づいたら、1株中の黄化籾の割合を確認しましょう。

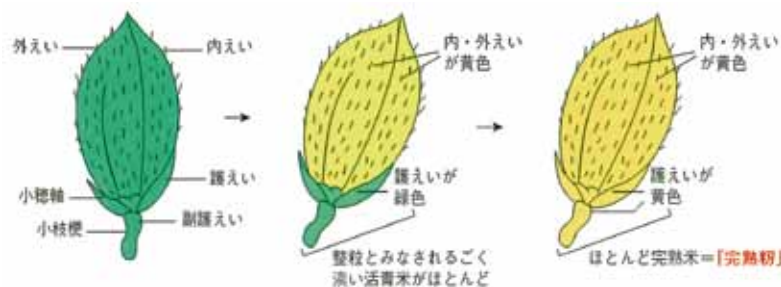
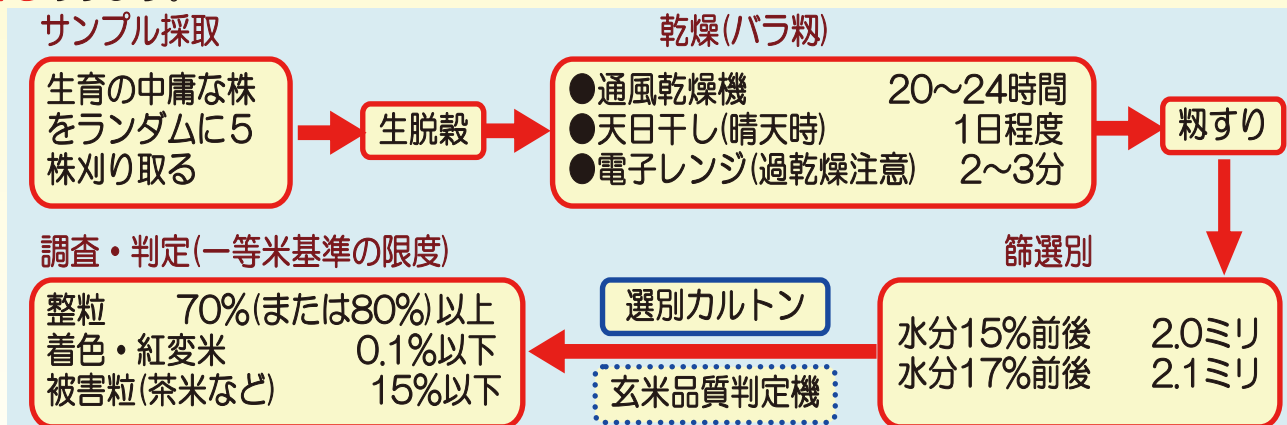


図2 籾の各部の名称と熟色の変化(H16、「北海道米の食味向上栽培マニュアル」より)

■ 試し刈りにより収穫適期の判定

○積算温度や籾の熟色で成熟期が近づいたら、試し刈りを行い玄米の状態では整粒歩合が70%以上になれば収穫適期とみなします。ただし、被害粒等の発生状況により**刈り取りが早まる場合**もあります。



- 登熟ムラを想定し、試し刈りはこまめに行いましょう！
- 褐変穂・いもち病多発の稲は別刈りしましょう。

収穫作業時の注意点

■ 高水分時の収穫のポイント

○今年是不時出穂も見られ、刈り取り直後の籾水分がばらつく心配があります。

○高水分の籾は、籾袋やフレコン、タンク内ですぐに蒸れて変質しやすいので**早急に乾燥機に入れ通風**しましょう。

○また、早朝は露が稲体に残っているので朝露が消えてから作業しましょう。

■ 品質の低下を防ぐために

○こぎ廻回転数を上げすぎると柔らかい生籾が損傷しやすく、低すぎると選別不良や詰まりを起こしやすいので機種ごとの**適正回転数を遵守**しましょう。

○倒伏や著しい登熟ムラ、病害虫の被害が見られるほ場では、未熟粒や被害粒の混入による品質低下を防ぐため、**別刈り**しましょう。

○作業前には品種確認を行い、品種が切り替わる時にはコンバインは**十分に清掃し、異品種混入を防ぎ**ましょう。

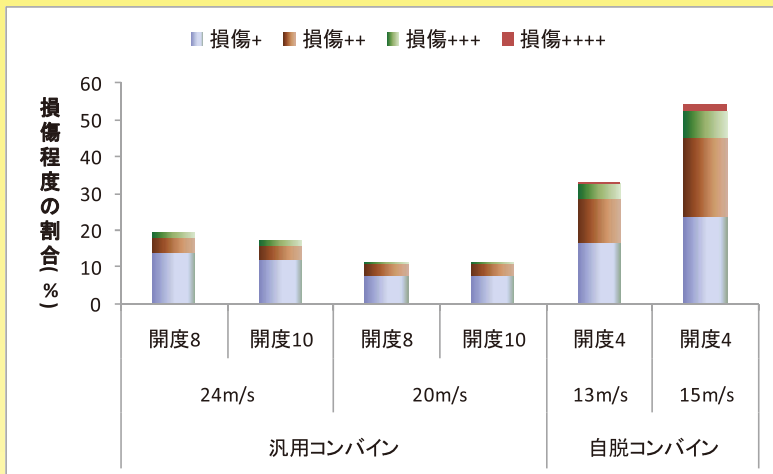


図3 機種別の籾損傷程度(中央農試)
(RO3,「令和3年産に向けての米づくり」より)

■ 安全な作業に向けて

○コンバイン収穫中の傷害事故はわら屑などを除去する際に多く発生しています。

○コンバインは必ずエンジンを止めてから除去清掃作業を行うようにしましょう。

適正乾燥のポイント

○乾燥開始時は籾水分が高いため、**高温乾燥を避け**ます。籾水分が25%以上では40℃以下で乾燥し、25%以下になってから通常の熱風温度とします。

○熱風乾燥では毎時の**乾減率が0.8%を超えると、胴割れが増加**しやすくなります。また、立毛時に軽い胴割れが発生している場合は重く進行しやすいので、毎時の乾減率を0.5～0.6%程度になるように乾燥温度を低めにします。

もち米の胴割れを防ごう

○ここ数年、もち米での胴割粒の発生が増加し、製品歩留まりを低下させています。

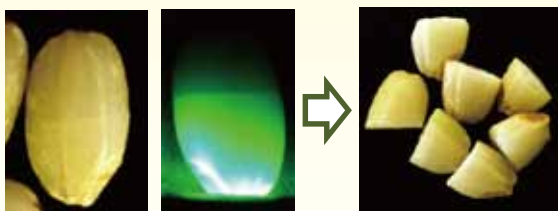


写真1 胴割れ粒 (風の子もち) 写真2 胴割れによる砕け米
左:肉眼 右:透視器 (TX-300)

◆ 胴割粒の主な発生助長要因

- ・落水後の水田土壌の乾き過ぎ (土壌表面の大きな亀裂)
- ・刈り取りの遅れ
- ・不適切な乾燥・調製

◆ 対応策

- ・登熟期間の土壌水分保持
- ・適期収穫
- ・適正な乾燥・調製

翌年に向けた収穫後の圃場管理

乾田化の促進

期待される乾田化のメリット

- 地温が上昇し、**根の張り**が改善されます。
- 地耐力(土の硬さ)が増し、**春先の機械作業**が容易になります。
- 乾土効果で地力窒素が早期に発現し、**初期生育の促進**と**施肥効率**が向上します。

■ 稲わらの搬出

○**稲わらは貴重な資源**です。搬出して堆肥や飼料などに有効活用しましょう！（写真3）

○**稲わらの野焼きは、絶対に行わないようにしましょう！**
煙害（健康・交通）や産地への風評害の原因になります。

○稲わら搬出は、いもち病発生圃場では菌密度を低減できます。



写真3 稲わらの梱包搬出作業

■ 溝掘りで表面排水の促進

○**溝は落水口につなぎ**、表面水を圃場外に流すことが重要です！

○表面水の除去により、圃場の乾燥が早まります。



写真4 専用機による溝掘り作業

■ 心土破碎の施工

○心土破碎は、「**圃場が乾いている時にできるだけゆっくりと施工する**」がコツです。



写真6
心土破碎施工後



写真5 溝掘りを施工後の水田

圃場の整備と土壌診断

■ あぜの補修

○冷害危険期に、**最大20cmの深水管理**ができる畦に補修・整備しましょう。。

○畦塗り施工は土壌水分のある時期に行うと効果的です(写真7)。



写真7 畦塗り作業

■ 土壌診断の活用を

○高品質米の安定生産には、施肥の適正化が必須です。

○分析結果や当年の生育を参考に、**圃場ごとに施肥の確認**を行いましょ

う！
○土壌分析は、3～4年毎に行いましょう！